

特集「21世紀の情報環境」編集にあたって

宗 森 純^{†1}

情報処理学会の情報環境領域では、ヒューマンインターアクション、グラフィクス、インターネットや交通システムにいたる情報環境に関わる広範な分野において21世紀の情報技術の発展を支える研究が行われており、これらの分野では様々な分野間の境界に属する多くの重要な研究も数多く存在する。そこで、情報環境領域の最新研究を概観できるような特集を組むことにより、21世紀の情報環境の潮流を示すことを本特集の目的とした。

本特集は次のような経緯で企画された。情報処理学会と電子情報通信学会システムソサエティ・ヒューマンコミュニケーショングループは、2002年より共同で、情報技術フォーラム(FIT)を開催している。そして2005年度よりFITに関する特集号を情報処理学会と電子情報通信学会が隔年で企画している。FIT2005では情報処理学会論文誌でフロンティア領域に絞り「情報処理技術のフロンティア」特集号が企画された。FIT2006では電子情報通信学会和文論文誌Dでコンピュータサイエンス領域に絞り「ユビキタス時代の情報基盤技術」特集号が企画された。本特集は主としてFIT2007で発表された情報環境領域の研究を発展させた論文・テクニカルノートを対象としている。すなわちFITの一般論文の内容をテクニカルノートとして投稿することや、FITの査読付き論文で採録となった論文の研究を発展させて論文(フルペーパー)として投稿することを念頭に置いている。もちろん、FITで発表されていない論文も対象に含まれる。

本特集では、情報環境領域の各分野(マルチメディア通信と分散処理、ヒューマンコンピュータインタラクション、グラフィクスとCAD、情報システムと社会環境、情報学基礎、オーディオビジュアル複合情報処理、グループウェアとネットワークサービス、分散システム/インターネット運用技術、デジタル・ドキュメント、モバイルコンピューティングとユビキタス通信、コンピュータセキュリティ、高度交通システム、高品質インターネット、システム評価、ユビキタスコンピューティングシステム)、および、関連する分野の論文・テクニカルノートを募集した。

本特集には予想以上の65件の投稿があり、急遽若干名の編集委員の増員を行った。各研

究会の分野に少なくとも1件の投稿があり、情報環境領域の特集という役目を達成していると思われる。投稿された論文の分野的にはヒューマンコンピュータインタラクション関係が多く、2番目の投稿数のグループウェアとネットワークサービス関係、モバイルコンピューティングとユビキタス通信関係の約3倍にあたる。FITの発表論文に関連する論文以外の投稿も多かったように思われるが確認はできていない。厳正な査読の結果、最終的には採録20件(ショートノート2件を含む)、不採録45件(取り下げも含む)となり、採択率は30.8%となった。採録された論文のおおまかな分野はネットワーク(5件)、セキュリティ・プライバシー(2件)、データマイニング(4件)、ヒューマンインタフェース(4件)、アプリケーション(5件)である。採録された論文は「21世紀の情報環境」にふさわしくパラエティに富むものとなった。投稿数の多さが示すように情報環境領域研究者の本特集号に対する関心は高く、特集号としては成功であった。今後、ますます分野の裾野は広がり、学際的な研究が増えていくことを期待できる。

FIT2007関係者の皆様、本特集号の編集委員の皆様、および電子情報通信学会の皆様のお力添え・ご協力により、このたび無事、掲載の運びとなった。皆様方にはこの場を借りて、お礼を申し上げます。

「21世紀の情報環境」特集号編集委員会

- 編集長
宗森 純(和歌山大学)
- 幹事
爰川知宏(NTT)
- 編集委員
大内一成(東芝)、岡田英彦(京都産業大学)、柿本正憲(日本SGI)、加藤直樹(東京学芸大)、金子 聡(日本アイ・ピー・エム・サービス)、岸田和明(慶應義塾大学)、重野 寛(慶應義塾大学)、関 良明(NTT)、関谷貴之(東京大学)、千田浩司(NTT)、竹下 敦(NTTドコモ)、地引昌弘(NEC)、塚田浩二(お茶の水女子大学)、中島 浩(京都大学)、中挟知延子(東洋大学)、並木美太郎(東京農工大学)、橋本真幸(KDDI)、福本雅朗(NTTドコモ)、松永賢次(専修大学)、水口 充(情報通信研究機構)、屋代智之(千葉工業大学)、山下雅史(九州大学)、吉野 孝(和歌山大学)

^{†1} 和歌山大学